

車を置いて出かけよう！自転車に乗って野外に出よう！

YMCCのカーフリーデー「鎌倉切通しめぐり」

実施日	2015年09月22日 国民の休日
クラブ名称	YMCCのカーフリーデー「鎌倉切通しめぐり」
行程	京急金沢八景駅 ⇒ 朝夷奈切通 ⇒ 釈迦堂切通 ⇒ 巨福呂坂(こぶくろざか)切通(新道) ⇒ 亀ヶ谷切通 ⇒ 化粧坂切通 ⇒ 銭洗弁財天 ⇒ 江ノ電長谷駅前 ⇒ JR鎌倉駅 約20km 「かるい」
集合場所	京急「金沢八景駅」駅前広場 09:30 集合 10:00 出発
担当	O湖
レポート編集	O湖
参加者	I浦、O湖、S山、T地、T田、T辺、F本、Y野 合計8名
搭乗機種	650B キャンピング×1、26吋ランドナー×2、26吋クラブモデル×1、700C ランドナー×1、700C クロスバイク×1、700C ロード×2
天候	晴れ、風弱し 少々暑かったけれど乾燥して心地よい一日でした

毎年この時期は「カーフリーデー」。ある一日マイカーの使用を控え、日ごろ車に依存する生活や行動などを考えてみよう。自動車優先の社会を見直し、地球環境や都市交通などのあり方を民草の水準で考え行動しようという運動です。

わたしたちヨコハマミナトサイクリングクラブ（YMCC）も、「横浜カーフリーデー」のこの日、草の根としてこの運動に参加し、横浜市の南西に隣接する鎌倉市に自転車で繰り出しました。

金沢八景駅より朝比奈方面へ移動中、道路は既に渋滞していました。シルバーウィークの真最中ですからね、自動車でこちら方面にいらされるお客さんの多いこと。この区間は幅員が狭く、まるで路側帯のないような道路なので、やむなく歩道へあがったりして遅々と進みます。



「朝夷奈切通」入口、説明書きの前にて

「朝比奈」バス停から県道を外れ、旧道を行くと程なくして未舗装の急峻な登り坂が現れました。これが朝比奈切通しの入口です。この場所にある説明書きによれば、正しくは「朝夷奈切通（あさいなきりどおし）」と呼ぶそうです。

古都鎌倉は、南を相模湾に面し残りの三方を山に囲まれた土地です。鎌倉時代に幕府が開かれました。この時代に陸路で鎌倉に出入りするには、切通と呼ぶ掘削した険しい道を登り降りして通行していました。



「朝夷奈切通」の未舗装路、上につれ険しくなります

【説明書きより抜粋】

鎌倉幕府のあった時代、「朝夷奈切通」は六浦の港と鎌倉を結ぶ重要な交通路でした。当時の六浦港は、関東各地や遠く唐など海外からの物資の集散地となっていました。六浦港へ船で運ばれた各地の物資は、この切通を越えて鎌倉へと運ばれていきました。



「朝夷奈切通」峠にて、樹木が生い茂って薄暗く意外と涼しい

わたしたちも往時を想像しつつ自転車を曳きながら徒歩にて進みます。すぐに勾配がきつくなり、道が狭くなると同時に路面の凹凸が大きくなりました。大きな岩石が路面から幾つも突出し通行の障害となっています。

こうなると歩行も難渋し、自転車を後方から押し上げたり担いだりして行くようになります。昔は荷駄を積んだ牛馬もこの切通しの難所を上り下りしたというのに、現代人は自転車を押し上げるのもひと苦勞です。



**ゲスト参加 T 辺さんと年季の積まれたランドナー
学生時代は旅の移動手段として各地を訪れました**

この日のクラブランには、旅行用のランドナー系が 5 機、快走用のロード系 3 機が揃いました。小径輪折畳みフレームによる参加が多いこのクラブでは珍しい機種構成です。偶然なのか、意図してこのようになったのかは存じませんが、結果として大径の車輪を選んでのご参加は正解です。



**F 本会長と新造ランドナー 駆動系に現代の部品を用い、
大幅なワイドレシオ化を実現しました**

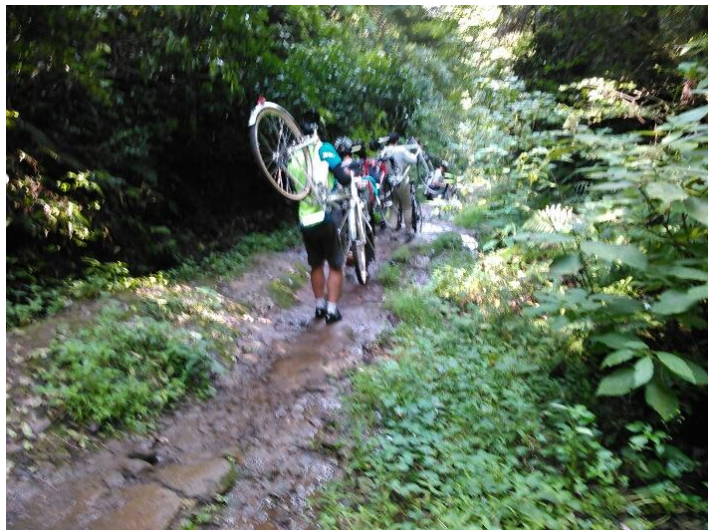
650A や同 B、700C サイズの車輪は、このようなときに 20 吋など小径車輪に対して有利です。大径車輪の機体は、最低地上高を比較的大きく取っているため、フレーム下方に露出したチェーンリングを岩石に打ち当てる危険が少ないからです。

一方で 20 吋など小径車輪は、小径ゆえにフレーム設計上の制約があり、クランク軸を保持するハンガーが低い位置にあります。そのうえ右クランクのチェーンリング歯数が多く、大型になることでより障害物に接触しやすくなります。適正なギヤ比を得るため、チェン駆動方式の小径車では避けえない構造的な特徴と申せましょう。このようなときダブル、トリプルギヤならば外側のチェーンリングにチェンを掛けること。そしてなるべく担いだり持ち上げて進むことがよろしいかと思えます。



朝夷奈切通は、峠から鎌倉側へ降りる方が難儀です

ようやく峠にたどり着き、心拍数が落ち着くのを待ちます。周囲を見回すと、左右に壁となった切通しには素掘りの跡が生々しく残り、昔の人力工事のご苦勞が偲ばれました。山を削り、土石を運び出すこの切通しの開削工事。どのような道具を使い、いったいどれくらいの期間を要したのでしょうか。想像したら気が遠くなりました。岩石だらけの土質、険しい地形は、現代の土木技術によっても相当な工事となりましょう。



大きな段差や、足元を流れる山清水に行く手を阻まれることも

この朝夷奈切通、峠から鎌倉側へ降りるのは楽だろうと思っていたら大間違いでした。歩行には六浦側からの登りよりも数倍の集中力を必要とします。道はいちおう階段状には削られていますが、一段毎の落差が大きく、自転車を担いで一歩ずつ着地点を確かめながらの歩行となります。

この足元を台風 18 号など先日来の長雨の影響で、山から湧き出た水が小川のようにして流れ落ちていきます。時には流れに進路を阻まれ、立ち止まることを余儀なくされることも。不用意に踏み出して水流に足を濡らさぬよう、滑らさぬよう慎重に歩を進めました。

険しい下り坂を降り、未舗装の地道を経て、一行は再び現代のアスファルト舗装の道路に戻りました。今こうして思い返せばなかなか楽しい道行きでした。これほど味わい深い場所は、いまや都市化された鎌倉の貴重な財産です。大事にして後世に伝え残していきたいものです。



釈迦堂切通は崖崩れにより通行不可、訪問者は往時の姿を想像して佇みます

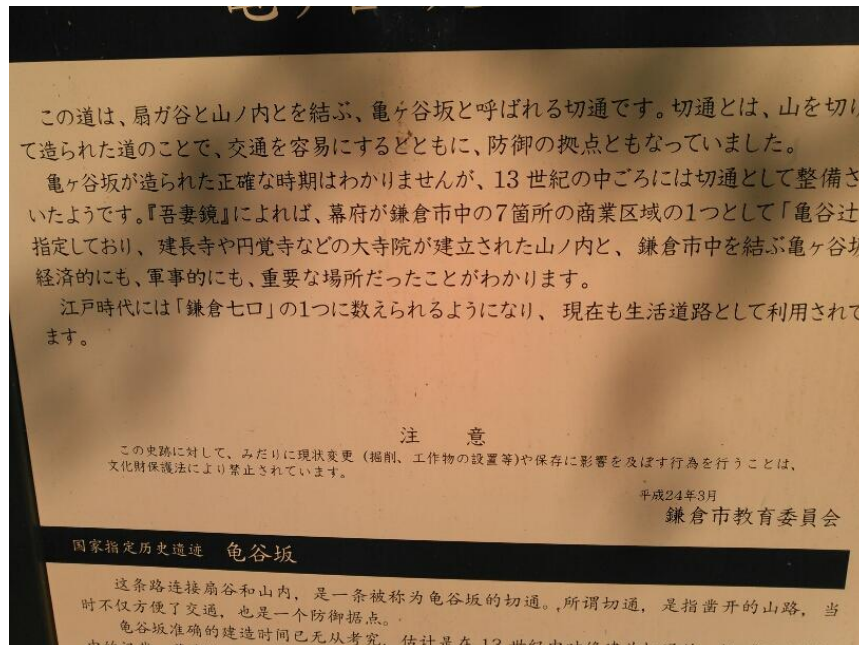
しばらく自転車に搭乗し、「釈迦堂（しゃかどう）切通」を目指して移動します。途中で、地元在住の I 浦さんご推奨の蕎麦処で昼食としました。

道路は幅員が狭いので、鎌倉の中心部に近づくとつれ歩行する観光のお客さんと自動車に挟まれるように覚えます。このまま進むのでは危いので自転車走行はあきらめました。自転車を降りて曳いて歩けば、わたしたちも歩行者の仲間入りです。遠慮がちにゆっくりと進むことにしました。

住宅街の奥の方、山際にひっそりとある釈迦堂切通は通行不可となっていました。通るべからずとの立て看板がこれでもかと林立して、どうやら当分の間は復旧工事もありそうに思えません。わたしたちはその出入り口から奥の方を見やり、往時の様子を想像して通行したつもりになりました。

鶴岡八幡宮（つるがおかはちまんぐう）の正面交差点は、観光客と通行の自動車とで溢れかえるようになっていました。この場所に自転車の存在する余地はありません。逃げるようにして北鎌倉方面へ巨福呂坂（こぶくろざか）をめざしました。

この「巨福呂坂切通」は新道です。現在は半ばで消滅してしまった旧道は、新道工事の際に切り崩されてしまったのかもしれませんが。たぶん、坂の頂近くで見上げれば、頭上あたりに在ったのではと推測します。



現在も生活道路として愛される亀ヶ谷坂にある説明板

巨福呂坂切通の新道をすこし下り左折すると、方角としてはいま上って来た鎌倉駅方面に戻るようにして再び坂を上がるようになります。これが「亀ヶ谷坂（かめがやつさか）」です。じつに閑静な切通しでして、人通りも少なくひっそりとしています。頂に立って下方を眺めると、勾配が急で長い。わたしたちは自転車で北鎌倉側から扇ヶ谷方面に降りていくのですが、急制動したらその勢いで前方へ放り出されそうでした。亀ヶ谷坂は、あまりの急坂に亀もひっくり返るので、「亀返坂」とも呼ばれるのだそうです。



化粧坂（けわいざか）切通、距離は短いが十分に楽しめます



化粧坂の頂にて、肩で息をする参加者

亀ヶ谷坂を降りた処に岩船地蔵があります。ここから JR 横須賀線の線路をくぐり、住宅街を奥へ進むと「化粧坂（けわいざか）切通」です。下から見上げると崖のように険しい。この切通しの通行は、「登る」と表現するのが適当でしょうね。

下方からサドルを支えて自転車を押し上げ、次にフレームを掴んで持ち上げてと、一段ずつ高い場所へ移動することの繰り返しです。かなり腕力を使います。距離は短い化粧坂ですけれども、自転車を携行しての通行難度は最も高い切通しだと申せましょう。



銭洗弁財天前の坂、善男善女が長い列を作って並んでいました

化粧坂の頂からは源氏山公園となりまして、公園を抜けさらに道なりに降りていくと「銭洗弁財天(ぜにあらいべんざいてん)」の入口となります。それはもう凄い数の参詣の人々でして、長蛇の列は、尻尾が見えなくなるまで坂の下へと続いていました。



Y野さんのキャンピング、 サイドバッグ用の横枠のある前荷台が特徴

この地で当 YMCC の S 山嬢と合流しました。彼女当日は愛用のロードバイクで藤沢から横浜北部へ買い物に行き、藤沢に戻ったところで今度は鎌倉までわたしたちの様子を見に駆けつけてくれました。横浜往復だけでも 40km 弱ありますからね。本日はすでにかなりの距離を走っているわけです。

もともとは初級サイクリスト講座の生徒さんだったのですよ。藤沢市に依頼されて神奈川県サイクリング協会が開講し、YMCC 講師が教鞭をとりました。熱心な生徒さんでして、ご卒業後も YMCC の門を叩き補講を希望されました。その後の成長は目を見張るほどの勢いでして、いまでは当会の山門に立つ、一対の女性サイクリスト仁王像、阿形（あぎょう）と叶形（うんぎょう）のうち一雄としてご活躍です。



喫茶店前にて、S山嬢も合流し賑やかになりました
旨い珈琲とケーキにお喋りが盛り上がります

参考：藤沢市ホームページより「2012年10月10日号 広報ふじさわ…公民館 たのしいサイクリング自転車楽楽入門」

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kouhou/khf121010/publichall01.html>

さてここでゲスト参加して下さったT辺さんから当日のご感想を頂戴しております。彼は何度もご参加くださっている、学生時代からの熟練サイクリストです。当時のランドナーをいまでも大事に使用されています。

【T 辺さん】

今はなんともないのですが、翌日の午前中は自転車を担いだためか右肩が少し痛かったです。中華料理店ではI浦さんやF本さんの業界話など楽しく聞かせていただきました。

YMCC ツーリングは、歴史に関係するものが多くありますね。インターネットで切り通しの写真を見て、今回のランは近辺に自転車を一時置いての”徒歩”による史跡巡りが主だろうと思っていました。切り通しの多くは「押し」で済みましたが、普段運動していないことから源氏山公園の化粧坂（けわいざか）での自転車担ぎはこたえました。

また会員のY野さんは、下記のように回想されました。彼は自走帰宅のため、飲酒懇談会には参加せず一足先に鎌倉を離れました。

【Y 野さん】

おそらく鎌倉切通しは、一人では行く事がないような場所でしたので、貴重な体験となりました。帰りの国道134号線の海風も心地よかったです。

担ぎ上げは想定外？でした。（笑） その昔、山岳サイクリングというカテゴリーがあった事を思い出しました。南アルプスの夏沢峠（だったか）に、パスハンターを担ぎ上げて登った記事もサイスポ誌にあったような気がします。憧れの世界でしたが、やはりランドナー系の担ぎ上げは重いですね。

彼は自転車好きが昂じて、高校時代に自転車競技部に所属しインターハイなど大きな大会に出場されること数度におよびました。現在は社会人として趣味の自転車を愉しんでおられます。シリーズ化したツーリングレポート、「サラリーマン的日本縦断の旅」はYMCCホームページ上に公開中です。

参照：「サラリーマン的日本縦断の旅 1st Stage」

[file:///C:/Users/sigeru/Downloads/1st_Stage%20\(2\).pdf](file:///C:/Users/sigeru/Downloads/1st_Stage%20(2).pdf)

参照：「サラリーマン的日本縦断の旅 2nd Stage」

[file:///C:/Users/sigeru/Downloads/2nd_Stage%20\(1\).pdf](file:///C:/Users/sigeru/Downloads/2nd_Stage%20(1).pdf)

先に【大きな岩石が路面から幾つも突出し通行の障害となっています】と書きました。舗装され平滑な道路に慣れきった現代人からは、昔の道は通行不便に思えます。けれどそれは、わたしたちが道路敷設など技術の進歩、時代の恩恵を享受しているおかげです。

岩石だらけの険しい鎌倉切通めぐりは、わたしたちに歴史の向こう側から現代の交通を映し出してくれました。通行の容易な道路を移動のたやすい自動車で行く、わたしたちが当たり前のように過ごしている日常のこと。そして多くの資源とエネルギーを費やしつつも、守るべき環境のことを考えるよい機会となったクラブランでした。

【エピソード】

一行は江ノ電「長谷駅」駅前喫茶店での歓談が昂じ、会話で費消したエネルギーを補うため、次に中華食堂に移動しました。よく食べ、よく飲み、よく喋り、じつに良い気分です。

ひとしきり飲食した後、帰宅の段におよび輪行することにしました。もう薄暮の時間帯です。お寺の拝観時間も終了したので、多くの人々が駅前に向かって移動していました。

行楽のお客さんは公共交通機関を上手に活用されていますね。到着する江ノ電はすでに満員状態です。輪行袋を持って乗るのはとても無理。それ以前に、あまりの人波に自転車を分解する場所すらありません。

ビールの薬効により気が大きくなったわたしたちは、このまま自転車を曳いて約2km離れた鎌倉駅をめざすことにしました。自転車の酔っ払い運転は法規違反です。飲んだら乗らないことを固く守りましょう。昼間から押したり曳いたり、歩くことには相当に慣れていますからね。一行は本日クラブランの余韻に浸り、上機嫌でお喋りしながら歩行しました。駅前で輪行作業を終えたころにはすっかり日暮れていましたっけ。

そしてわたしは帰路JR横須賀線の網棚にサドルバッグを置き忘れしました。飲み過ぎですね、歩行により酔いが身体中に回りました。わたしの降車後、T 辺さんと T 田さんがすぐに気づいてサドルバッグを回収してくださいました。おかげさまで、翌日には宅配便でわたしの手元に無事戻りました。お二方にはまことにお世話お掛けしました、どうもありがとうございます。

(写真提供：T 辺さん)

「車を置いて出かけよう！自転車に乗って野外に出よう！

YMCC のカーフリーデー 鎌倉切通しめぐり」大湖 茂 以上